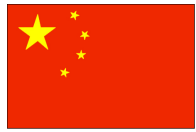


COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

27 January 2009

IN THE HEADLINES



中国

2009年第4四半期の実質GDP成長率は前年同期比10.7%まで加速した(1年では8.3%)。12月に輸出と小売業の売上が伸びていることを受け、インフレの上昇(前年同期比1.9%まで上昇したが、これは基準が低いことにもよる)、資産価格と超緩和状態にある金融政策に注目が集まり始めた。信用供与の伸び率の目標値は低めのもので発表されたが、それでも2009年の目標よりも50%高いものであり、噂によればいくつかの銀行は貸付を一時的に停止を打診された模様である。当局が再調整をしていることは正しいと思われるものの、経済の過熱を示す証拠は限られているため、とりわけ輸出の回復が初期段階にあると見られる中、当局は注意深く進むと思われる。ただし、近いうちに金利の引き上げが起こるかもしれない。



韓国

第4四半期の実質GDPは前年同期比6%となり(先行予測)、これは2008年の終わりに経済活動が崩壊したことによる、比較時点の水準の低さによるものも一部ある。前四半期比では、成長率は0.2%まで落ち着いたが、これは輸出(-1.9%)、政府支出(-2.9%)および民間支出(-0.1%)がいずれも弱かったことによる。しかし、前四半期比の減速は、第2、第3四半期の健全な平均成長率2.9%に続くものであり、大きな懸念事項ではないと思われる。概して、当該経済は、2009年のGDP成長率が0.2%程度と予測されていることもあり、景気後退を回避できたと思われる。月次の指標と消費者心理を表す指数はこの回復が続くことを示唆している。2010年の経済成長は3-4%程度が見込まれる。



ハンガリー

今週、主要政策金利は25bps引き下げられて6%となり、2009年中盤からの累積の金利引き下げは350bpsにも上ることになった。中央銀行は引き続き為替水準の安定と経済回復をインフレの抑制よりも優先事項としていることもあり、同インフレは6月には3.7%だったところ、12月には前年同期比5.6%となった(ただし、この上昇は間接税の導入による部分も大きい)。2009年第2四半期から、ハンガリーフォント対ユーロの為替レートは265-280のバンド内で安定してきている。さらなる金利引き下げが可能だが、これは4月に変わる可能性が高い新政権において財政的な堅実さが維持されるかどうかにかかっている。良いニュースとしては、実施中のIMFプログラムが2010年の10月まで延長されることが決まったことがあげられる。



スリランカ

昨日の大統領選は接戦になると見られていた。ラジャパクサ氏は現職であることで有利な面もあり、また、昨年5月の「タミル・イーラム解放のトラ」との内戦への勝利によって人気を得たと見られていた。しかし、彼の主要な対立候補である前政府軍参謀長フォンセカ氏は同じような人気を博していた。よって、結果の速報ではラジャパクサ氏の勝利が確認され、全般的な政策の継続性は確保されるだろう。より懸念されることとしてはフォンセカ氏の動きを、少なくとも今は制限するために軍部が動員されているという点であり、ラジャパクサー族がさらに少数のエリートによって権力を集中させるという報道である。

ALSO IMPORTANT...



アンゴラ

先週、国会一与党アンゴラ解放人民運動・労働党(MPLA)が過半数を占める一において新憲法が承認された。改正は大統領の権力を強化し、国家元首となるための選挙を不要にするものである。よって、現職のジョゼ・エドゥアルド・ドスサントスは今後も、少なくともMPLAが過半数を占めるなか、健康問題が浮上する長期間にわたり地位に留まると思われる。新しい憲法はアフリカネイションズカップを主催している間(この事実そのものが、原油リッチな当該国が大陸で存在感を高めている証拠である)に急いで承認されたとの見方もある。短期的には政治的な変化はなく、新しい憲法は現状を再確認するだけである。



モーリシャス

中国は特別経済地区にUSD700百万ドルを投資する計画であり、そこからアフリカ向けの戦略的な投資を行うと見られている。モーリシャスは既に砂糖生産、衣料および観光業から、サービス業(IT、金融と貿易)に多角化する必要があることを示していたため、中国の一方的な案件ではない。地元の人口はもとを辿れば南アジアから来ているため、中国の進出をインドは気がかりに思っていることだろう。インドは既にモーリシャスを、アフリカ大陸への進出基点として位置付けており、インド洋での中国海軍の存在に神経質になっている。モーリシャスは健全な経済管理の実績があるため、さらなる内部に向けた投資と貿易の伸びが期待される。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



グアテマラ

いくつかの主要指標が改善しており、経常収支赤字、インフレ率、国内信用拡大と実質為替レートがあげられる。しかし、GDPの伸びは世界的な景気後退によって打撃を受けており、財政赤字と公的債務・GDP比は増加している。対外債務支払が外貨準備高比で高いことから、IMFのスタンプドバイ取極の迅速な交渉と同プログラム下での好調な実績が信用の維持に重要で、経済回復のために肝要である。社会的な緊張は根深い。政治的な制度は弱く、政党はバラバラで二極化している。2010年の成長は2.5%が見込まれるだろう(2009年には0.3%)。



モンテネグロ

政治的な環境は2006年の独立以来比較的平穏である。しかし、政治改革の進捗は限定的で、その結果として管理能力と効率性の低さ、不透明な法的・制度的な枠組みと高い汚職率によってビジネス環境は困難なものになっている。経済の基礎条件も弱い。2006-08年に過熱した後、2009年に4%程度縮小するなど、経済はハードランディングを経験した。2010年の経常収支赤字は維持不能な水準の10%超になり、対外債務はGDPの80%もの水準になることが見込まれる。全般的なカントリーリスクは非常に高い。

IN BRIEF

南アフリカ

インフレ懸念があるにも関わらず、南アフリカ準備銀行(SARB、中央銀行)はレポ金利を7%で不変とした(1月26日)。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.